

Sinfonia

シンフォニア

Czech Philharmonic

「音楽で暮らしに感動を届ける」ザ・シンフォニーホールの情報誌

Vol.70

2025 7月 - 9月

2025 7/10 発行

TAKE FREE



チェコ・フィルハーモニー 管弦楽団 大阪公演

The Symphony Hall プラチナコンサート
世界の巨匠とともに2025

Semyon Bychkov

指揮 セムヨン・ビシュコフ

Close Up

速報!

ザ・シンフォニーホール ジルベスターコンサート2025
ザ・シンフォニーホール ニューイヤーコンサート2026

前橋汀子 ヴァイオリン・スペシャル・コンサート インタビュー

ほか



Seong-jin Cho

ピアノ セョ・ジンチョン

速報!

年末・年始を彩るスペシャル公演!

発売日

シンフォニア会員先行: 9月27日(土)
一般発売: 9月28日(日)

NEW
RELEASE

若手からベテランまで、
豪華歌手たちが集結する年に1度の祭典

オールスター

紅白

オペラ歌合戦2025

公演日 **2025. 12月26日(金) 6:30PM**



ザ・シンフォニーホール年末の風物詩「オールスター紅白オペラ歌合戦」。若手、ベテランを問わず、目覚ましい活躍を見せるオペラ歌手が年に一度、ザ・シンフォニーホールのステージに集い、傑作オペラ・アリアの数々を歌うスペシャルコンサートだ。歌合戦のタイトル通り、こちらは紅組・白組どちらが優れているかを決するという側面も持つっており、勝敗は審査員と聴衆のジャッジで決まる。そう、どちらが良かったか、聴衆の貴方の意見も採用される、お客様参加型のコンサートなのだ。2018年に始まり、これまで7回を終えたが、現在までの勝敗は、4勝3敗で紅組の優勢。今年の出演者や、プログラムの全貌は次号で詳しくお知らせするが、チームキャプテンは例年通り、紅組はソプラノの斉藤言子、白組はバリトンの田中勉という第一線で活躍しながらも、後進の指導にも余念のない二人に決まっている。1年の締め括り、頑張った自分へのご褒美に、残響2秒のホールで名曲アリアに酔いしれてみるのはいかが。

(文 磯島浩彰)

原田慶太楼 Produce

The Symphony Hall

ジルベスター&ニューイヤーコンサート

独特のアイデアで聴くものを魅了する特別プログラム



[管弦楽] 日本センチュリー交響楽団

©井上嘉和

[指揮]

原田慶太楼

©Claudia Hershner

NEW
RELEASE

The Symphony Hall

ジルベスター コンサート2025

公演日 **2025. 12月31日(水) 3:00PM**



[ヴァイオリン]

服部百音

予定曲目

ピアノ:
プエノスアイレスの四季
サラサーテ:
ツィゴイネルワイゼン op.20

The Symphony Hall

ニューイヤー コンサート2026

公演日 **2026. 1月1日(木・祝) 3:00PM**



[ピアノ]

清塚信也

予定曲目

ガーシュウィン:
ラブソディ・イン・ブルー
ラフマニノフ:
ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18

[協力]株式会社 獺祭

プラス de シネマ

The Symphony Hall
Super Brass
cooperate with Osaka Shion Wind Orchestra
ホルン《聖櫃》

Superman
cooperate with us

レイダース 失われたアーク《聖櫃》
スーパーマン / ハリー・ポッターと賢者の石
ジュラシック・パーク
スター・ウォーズ
プロジェクションマッピング付き



ジョン・ウィリアムズで
ぶっちぎり!!

[指揮] 喜多弘悦

Shion × *The Symphony Hall*

[演奏] The Symphony Hall Super Brass

2025 7/26 (土) 15:00 開演 [14:00 開場] **ザ・シンフォニーホール**
S 一般 6,600 円 高校生以下 (4~18歳) 3,300 円 A 4,400 円 (全席指定 税込)

ご予約・お問合せ **ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333** (火曜定休)

■Shionチケットセンター フリーコール 0800-919-5508 (土・日・祝を除く10:00~17:30)

■ザ・シンフォニーホール <https://www.symphonihall.jp>
■Shion on the Bay <https://shion.jp/ticket/>

■e+(イープラス) <https://enplus.jp/symphonyhall> (パソコン・携帯)

■チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonyhall/> [Pコード: 297-360]

■ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonyhall> [Lコード:57573]

主催：ザ・シンフォニーホール

- ※4歳以上のお子様からご入場頂けます。
- ※プロジェクションマッピング付き。
- ※18歳以下の学生は、公演当日、年齢が確認できる身分証をご持参下さい。
- ※やむを得ない事情により、出演者、曲目曲順が変更になる場合がございます。
- ※公演中止・延期の場合を除いて、チケットの払い戻しは承りません。予め、ご了承下さい。

チケットは
こちら▶



Shidn

文化庁

令和7年度
文化庁 劇場・音楽堂等における
子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

池末信

The Symphony Hall 2025年末スペシャルコンサート



**The Symphony Hall
Super Brass**

×

THE SOULMATICs

速報!

ゴスペル

今年も
開催決定!!

指揮 喜多弘悦

圧倒的なスケールで音の渦に巻き込む唯一無二のコンサート

大阪4オケを中心にクラシックコンサートを聴いている方の中には、「ザ・シンフォニーホールは庭のようなもの(笑)。年に何回もホールに足を運んでいる!」と豪語するクラシック音楽ファンもいるに違いない。しかし彼らも意外と知らないザ・シンフォニーホールの姿がある。ザ・シンフォニーホール・スーパーブラス(以下TSHSB)のコンサートで見せる、色鮮やかなプロジェクションマッピングに彩られた華やかなホールの様子と、美しいブラスサウンドが鳴り響くホールの音響を体験すれば、彼らは逆に驚くに違いない。そして、もっと早く体験しておくべきだったと後悔するかもしれない。ザ・シンフォニーホールは、クラシック音楽の殿堂というだけではない。音楽家のあらゆるニーズに応えるよう、日々進化を重ねている最強のホールなのだ。

オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ(以下Shion)とザ・シンフォニーホールの共同企画で2022年にスタートしたTSHSB。Shionの名手に加え、関西の第一線で活躍する精鋭が加わった腕利き集団が奏でるブラスサウンドは迫力がある上に、

美しい。彼らのコンサートの中でも、私が個人的にいちばん楽しみにしているのが、12月に行われるゴスペルのコンサートだ。TSHSBとゴスペルグループ「THE SOUL MATICS」が、年に1度タッグを組む豪華なコンサートは、圧倒的なスケールで聴衆を音の渦に巻き込んでしまう唯一無二のコンサート。黒人の声を持つ新しい日本人のゴスペルグループと評される彼らの歌声は、紛れもなくホンモノなのだ。腕利き集団TSHSBに混じっても引けを取らない彼らの歌を聴いていると、人間の声こそ最強の楽器、ということを実感してしまふ。日本のエンターテインメントシーンで活躍をしているTHE SOUL MATICS。これまで三代目J SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE、Superfly、いきものがかりや、ミュージカル『レント』『ビューティフル』にも出演し、ゴスペルのレパートリーは数百曲にも及ぶという。彼らを率いるのは日本を代表するゴスペル歌手で、教育者としても知られる池末信。TSHSBの指揮者を務め、ザ・シンフォニーホール の取締役GM・音楽総監督の喜多弘悦とは古くからの盟友だと聞くと、なるほどと頷いてしまふ。洗練されたソウル

[指揮]喜多弘悦 [演奏]The Symphony Hall Super Brass
[ゴスペル]池末 信×THE SOULMATICS

ジョイフル・ジョイフル／聖者の行進／翼をください ほか

2025. 12/29 (月) 3:00PM

全席指定 S 6,600円 A 4,400円(税込)

※4歳以上のお子様からご入場可能です。

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール 詳細



[詳細はこちら](#)

今年の『The Symphony Hall Super Brass×THE SOULMATICS ゴスペル』公演ではどんな名曲が披露されるか!?

毎回、THE SOULMATICSディレクター 池末 信
の作詞・作編曲によるスペシャルな曲が披露される
ので、お楽しみに！

詳しいプログラムは7月26日の『プラス de シネマ』
公演で発表します。

The Symphony Hall
音楽総監督 Super Brass指揮者 喜多弘悦

フルな歌声に加えて絢爛豪華なブルジョアシヨンマツピングが支配するザ・シンフォニーホールを一度体験したら、虜になること間違いない。今年はヘンデルではなく、ゴスペルでハレルヤはいかがい？

(文) 磯島浩彰

The Symphony Hall プラチナコンサート 世界の巨匠とともに2025

文 山田治生

Vol.1 ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団 大阪公演

2025. **8/30** (土) 2:00PM開演

〔指揮〕アンナ・スウコフスカ-ミゴン

〔ピアノ〕牛田智大

〔管弦楽〕ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団



チケットの
購入はこちら

ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11

ドヴォルザーク：交響曲 第9番 ホ短調 op.95「新世界より」

単 発売中

券 S 16,500円 A 売切 B 売切 C 売切 (全席指定 税込)

2025年はショパン・コンクールの年であるが、同コンクールのファイナルで演奏するオーケストラといえば、ワルシャワ国立フィルである。10月の本選に先駆けて、彼らが来日し、ショパンのピアノ協奏曲第1番を演奏する。独奏は今回のショパン・コンクール出場が決まっている牛田智大。まさに注目の共演といえるだろう。指揮はポーランドの気鋭の指揮者アンナ・スウコフスカ-ミゴン。彼女の指揮する「新世界」交響曲も興味津々である。

Vol.2 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 大阪公演

2025. **10/19** (日) 2:00PM開演

〔指揮〕セミヨン・ビシュコフ

〔ピアノ〕チョ・ソンジン

〔管弦楽〕チェコ・フィルハーモニー管弦楽団



チケットの
購入はこちら

スメタナ：交響詩『わが祖国』より「モルダウ」

ラヴェル：ピアノ協奏曲 ト長調

チャイコフスキー：交響曲 第5番 ホ短調 op.64

単 発売中

券 S 24,200円 A 19,800円 B 売切 C 売切 (全席指定 税込)

伝説あるチェコ・フィルが音楽監督セミヨン・ビシュコフとまたやってくる。今回の最大の注目は、前々回のショパン・コンクールの優勝者であり、今世界が最も期待するピアニストの一人であるチョ・ソンジンとの共演である。最近、彼が傾倒しているラヴェルの演奏は聴きものである。もちろん、ビシュコフが得意とするチャイコフスキーの交響曲第5番やチェコ・フィルの十八番であるスメタナの「モルダウ」も聴き逃さない。

Vol.3 五嶋みどり with ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団 大阪公演

2026. **3/20** (金・祝) 2:00PM開演

〔ヴァイオリン〕五嶋みどり

〔リーダー〕ダニエル・ドッズ

〔管弦楽〕ルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団



チケットの
購入はこちら

モーツァルト：交響曲 第41番 八長調 K.551「ジュピター」

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

単

券 シンフォニア会員先行：9/25(木) 一般発売：9/28(日)

S 23,100円 A 18,700円 B 16,500円 C 15,400円 (全席指定 税込)

現代最高のヴァイオリニストの一人である五嶋みどりがルツェルン・フェスティバル室内管弦楽団とともにザ・シンフォニーホールに帰ってくる。今回は、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を彼らと指揮者なしで演奏するのに注目である。五嶋みどりとオーケストラの深いコミュニケーションが聴けるだろう。そのほか、ルツェルン・フェスティバル室内管の指揮者なしでのモーツァルトの交響曲第41番「ジュピター」も楽しみである。

プラチナセット券
63,800円 (税込/全3公演通し券)

※ザ・シンフォニーチケットセンターのみお取り扱いします。他のプレイガイドでの販売はございません。

完売御礼

ワルシャワ国立 フィルハーモニー 管弦楽団 大阪公演

ともはる
〔ピアノ〕**牛田智大**
Tomoharu Ushida

Warsaw Philharmonic Orchestra

©Ariga Terasawa

©Grzegorz Mart

ショパン・コンクールの伝統を支える名オーケストラと注目のピアニストとの共演が実現

ザ・シンフォニーホールが放つ好企画「世界の巨匠とともに」が、いよいよスタート。シリーズ第1回はポーランドからワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団が登場する。指揮はアンナ・スウコフスカ-ミゴン、ソリストに牛田智大。ショパンの「ピアノ協奏曲第1番」とドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」という王道の名曲プロが組まれた。

この4〜5月はピアノファンの間では現在進行中のショパン国際ピアノコンクールとブゾーニ国際ピアノコンクール、さらにはエリザベート王妃国際音楽コンクールの予選の話題でもちぎりだった。読者の中にも、現地からの動画配信で、推しのピアニストたちの健闘ぶりをハラハラしながら見守っていた人も多いはず。とくに「ショパコン」は前回の第18回(2021年)で反田恭平、小林愛実、角野隼斗、ブルース・リウといったスターが生まれ日本で新たなピアノ・ブームが巻き起こっているだけに、今回の動向に関心は高まるばかりだ。このワルシャワ国立管の来日公演も10月にポーランドで開催されるショパコン本大会直前のイベントとして必聴。

同大会予選免除のかたちで出場する(5月26日現在 牛田智大の弾くショパンのピアノ協奏曲を聴けるだけにファンにとっても最高に嬉しいコンサートとなる。昨年開催されたリーズ国際ピアノコンクールでは世界中の視聴者からの投票によるMedici-tv賞を獲得、国内では室内楽のシリーズも高く評価され日本ショパン協会賞を贈られるなど絶好調。卓越した音楽性と確かな技巧にいつそうの磨きがかかり、ひとまわり大人になった牛田の演奏に期待したい。

この牛田と共演するワルシャワ国立管は1901年に誕生した故国を代表するオーケストラ。これまでに世界的な指揮者と共演、また錚々たる演奏家たちと名演を披露してきた歴史とレパートリーの広さを誇る。ショパコン本選においてファイナリストたちと共演することでも知られ、本場のショパン演奏を聴かせる団体として確固たる地位にある。

これまでカジミエシュ・コルト、アントニ・ヴィットといったお馴染みの芸術監督に率いられた日本を訪れているが、今回は2022年のラ・マエストラ国際指揮者コンクールに優勝以来、欧米での主要オーケストラや歌劇場で目覚ましい活躍ぶりをみせるポーランド出身のアンナ・スウコフスカ-ミゴンとの来日となる(ミゴンは初来日)。

〔指揮〕アンナ・スウコフスカ-ミゴン
〔ピアノ〕牛田智大
〔管弦楽〕ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11
ドヴォルザーク：交響曲 第9番 ホ短調 op.95「新世界より」

2025. **8/30** (土) 2:00PM

全席指定 S 16,500円 A 売切 B 売切 C 売切(税込)

〔お問い合わせ〕ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

〔主催〕ザ・シンフォニーホール



発売中

詳細はこちら



〔指揮〕アンナ・スウコフスカ-ミゴン

これまたファン垂涎の「新世界より」はオーケストラの各楽器セクションの色彩性とアンサンブル力が醍醐味ゆえ指揮者の腕の見せどころ満載。近年、日本中で多くのオーケストラがとりあげ音楽性が再評価されている名作だけに、新星ミゴンが曲にどのように光を当てるのか大いに注目される。

(文 城間 勉/音楽ライター)

チェコ・フィルハーモニー 管弦楽団 大阪公演 Czech Philharmonic

【指揮】
セミヨン・ビシュコフ

Interview

“いつも特別な気分させてくれる場所”で
名演を再び



©Umberto Nicoletti

Semyon Bychkov

この10月、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団が来日する。1896年に創設されたチェコの名門を率いるのは、首席指揮者のセミヨン・ビシュコフ。過去2回の来日公演ではチャイコフスキー、ドヴォルザーク、スメタナなどのレパートリーによる名演で大きな評判を呼んだ。チェコ・フィルという特別な楽団への想いや大阪公演に向けての抱負を聞いた。

——ビシュコフさんが2018年にチェコ・フィルの首席指揮者に就任されてから、早いもので7年の歳月が経過しました。この間の成果をどのように見ておられますか？

私がこの仕事を始めてから、素晴らしい日々が続きました。そして7シーズン目が終わりに近づいた今、私たちの共同作業が大きな発展を遂げてきたのを感じています。

今シーズンはアメリカとヨーロッパ主要都市へのツアーを行いました。聴衆が私たちに対して示したのは、チェコ・フィルが今や世界の一流オーケストラの中でもトップクラスに位置しているという反応です。このオケはかつて首席指揮者を務めたカレル・アンチェルやヴァーツラフ・ノイマンとの録音で偉大

な伝説を築きましたが、今チェコ・フィルと私にとって最も重要なのは、この楽団のDNAに刻み込まれたチェコ音楽の解釈で認められるだけでなく、国際的なレパートリーにおいてもいかに説得力のある演奏をできるか、なのです。まさにそれが実現していることに、私は満ち足りた気持ちでいます。

チェコ、フランス、ロシア音楽による多彩なプログラム

——今回の大阪公演も、チェコ・フィルの代名詞ともいえるスメタナの《モルダウ》から始まって、チェコ、フランス、ロシア音楽という多彩な内容です。まず、メインプログラムのチャイコフス

キーの交響曲第5番について聞かせてください。

チャイコフスキーの音楽は、マーラーと同じく、非常に自伝的です。彼が感じたこと、経験したことが作品に反映されています。それは夢であり、結局のところ闘いです。第4番も第5番も、運命の主題で始まり、その主題が何度も繰り返されます。実際、チャイコフスキーは運命の力というものを信じていたと思います。この第5交響曲は、巨大な傑作です。

もうひとつ、交響曲第6番《悲愴》や《マンフレッド》交響曲でもそうですが、この第5番にはテンポや強弱などの表現の指示が、マーラーに劣らないほど細かく書き込まれています。それらを厳密に再現するのは大変な作業なのですが、しっかりと聴こえてきます。つまり、チャイコフスキーは自分が聴きたい音をそれだけよく理解していたのだでしょう。

——前半のラヴェルのピアノ協奏曲では、世界で活躍中のピアニスト、チョ・ソンジンと共演されます。

チョ・ソンジンとは、私が委嘱したフランスの作曲家、ティエ

リー・エスケシュのピアノ協奏曲で一度共演しました。技術的に非常に難しい曲で、彼にとっても極めてチャレンジングな体験だったと思いますが、この作品にいのちを吹き込むため献身的に努力する様には心打たれました。日本で共演するのは彼の十八番ともいえるラヴェルの協奏曲ですから、今から楽しみにしています。

——ビシュコフさんはかつてパリ管弦楽団の首席指揮者を務めるなど、フランス音楽への造詣も深いですが、ラヴェルは好きですか？

もちろんです（笑い）。ラヴェルの音楽が好きでないと言う人など、私の周りにはいません。クラシックの音楽家に限った話ではありませんよ。ジャズミュージシャンにクラシック音楽について尋ねると、彼らが決まって「一番好きだ」と挙げる作曲家が2人います。それが、ラヴェルとストラヴィンスキーです。今年はラヴェルの生誕150年なので、彼の曲を演奏するのにふさわしい年と言えるでしょう。でも私は毎年、ラヴェルを個人的に祝っています。なぜなら、彼の音楽は本当にユニークだと感じるからです。

ザ・シンフォニーホールは「宝石のよう」

——今回演奏される大阪のザ・シンフォニーホールについて、どのような印象をお持ちでしょうか？

それはもう、絶对的に美しい音色を持つホールです。プラハにある私たちの本拠地ルドルフィナムとよく似ています。それほど大きくなく、親密な雰囲気とすばらしい音響を備えたホールという点で。私はザ・シンフォニーホールを本当に愛しています。2023年のツアーで演奏したときのことはよく覚えていますが、とてもあたたかく、私たちをいつも特別な気分させてくれる場所なのです。「宝石のよう」と言っても過言ではありません。

——興味深いお話をありがとうございました。最後に日本の聴衆にメッセージをいただけますか。

私のメッセージはいたってシンプルです。再び日本に行くことが待ちきれません。そして日本を離れるときは、いつも次の訪問が待ちきれなくなります。

（取材・文 中村真人）



©Vaclav Jirasek

【管弦楽】チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

【指揮】セミヨン・ビシュコフ 【ピアノ】チョ・ソンジン
【管弦楽】チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

スメタナ：交響詩「わが祖国」より「モルダウ」
ラヴェル：ピアノ協奏曲 ト長調
チャイコフスキー：交響曲 第5番 ホ短調 op.64

2025. 10/19 (日) 2:00PM
全席指定 S 24,200円 A 19,800円
B 売切 C 売切(税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

詳細はこちら

ホールと連携協定を締結から交流。そして日本公演決定へ

2017年に「ユネスコ音楽創造都市」に選定された韓国第3の都市、大邱(テグ)。コンサートホールやオペラハウスを所有する大邱芸術文化財団が運営するDaegu Concert Houseとザ・シンフォニーホールが、2024年9月に「アーティストの出演・演奏プログラムの協力」「施設運営・音響設備・サービスマネジメント人材の交流プログラムの実施」「技術・アイデアの共有」を柱に連携協定を締結。コンサートホール間の関係を発展させるだけに留まらず、両都市間の関係強化をも期待しての活動がスタートした。

2025年3月には、The Symphony Hall Super Brassから厳選された13名が“スーパーブラサンブル”としてDaegu Concert Houseで開催の「国際アンサンブルフェスティバル」に招待され、モーツァルトの歌劇や序曲に始まり、日本と韓国の伝承音楽を融合した「アリランと赤とんぼ」や「木挽き歌」を演奏。後半には日本のアニメやミュージカルの曲などバラエティに富んだプログラムを披露し、喝采を浴びた。このことをきっかけに両者の交流が進み、大邱を代表するオーケストラである大邱市立交響楽団が今回、来日コンサートを行う運びとなった。



**日本公演は福岡と大阪
共演は金子三勇士**

「大邱市立交響楽団 日本公演」は、福岡公演(9月22日(月)アクロス福岡シンフォニーホール)と大阪公演(9月25日(木)ザ・シンフォニーホール)の2会場で行われ、音楽監督のジン・ベクが指揮をし、人気ピアノの金子三勇士を迎え、ラフマニノフのピアノ協奏曲 第2番と、交響曲 第2番というオールラウンドなプログラムを演奏する。今年8月、デビュー以来14年ぶりにザ・シンフォニーホールで

ソロ・リサイタルを開催する金子三勇士としては、2カ月連続でのホール登場となり、気合十分といったところではないか。ラフマニノフの協奏曲 第2番といえは2018年、金子は自身のルーツでもあるハンガリーはブタペストの国立リスト音楽院大学ホールで、小林研一郎の指揮、MAVタベスタ交響楽団を相手に演奏して、大変話題になったことは記憶に新しい。そんなことから金子にとって特別な曲に違いない。豊潤なロマン溢れるピアノ協奏曲と、1時間

世界に飛躍する大邱市立交響楽団 10年ぶりの日本特別公演で魅せる 名曲プログラム

を超える堂々たる交響曲を、韓国に於いて大マエストロの呼び声の高いジン・ベクと金子三勇士、大邱市立交響楽団は、どんな化学反応で我々に聴かせてくれるのか、興味は尽きない。

**関西在住クラシックリスナーへ
届ける初演奏**

これまで大邱市立交響楽団は3度の来日を果たしている。1度目は「大邱世界陸上競技選手権大会2011」のプロモーションのため、2010年に東京と大阪で公演を行った。2度目は2011年、「アジア・オーケストラ・ウィーク」(以降AOW)に正式に招待される。この年、ニュージーランド南島と日本の東北をはじめとする東日本に相次いで震災が発生した。AOWでは「大震災からの復興」をテーマに「シンフォニー」と題して、ニュージーランドのクライストチャーチ交響楽団と共に、日本のためにチャリティコンサートを展開してくれた韓国のオーケストラを代表して、大邱市立交響楽団を招待。ホスト・オーケストラの仙台フィルハーモニー管弦楽団も参加し、合同公演や文化交流を東京と仙台で展開し、オーケストラ演奏で人々を励ます様子が話題となった。3度目は2015年、大邱の文化親善大使として広島を訪れ、「大邱の日」と

日韓国交正常化50周年記念事業の一環として、演奏を行った。このようにオーケストラとしては珍しいほどのフットワークの良さや積極果敢な演奏から、楽団としてのチャレンジングな姿勢が見て取れる。過去3度のうち、唯一大阪を舞台に行われた2010年の初来日公演は、ザ・シンフォニーホールで行われたものの完全招待制だったため、今回の大阪公演が初めて関西在住のクラシックリスナーが彼らの実演を聴く機会となる。

**飛躍を遂げるオーケストラの
アンサンブルに期待**

今年に入り、韓国のソウル市立交響楽団の事務局トップが「うちの楽団は、10年以内にベルリンフィルと競争出来る水準に上がる」と公式の会見で話し話題となったが、韓国のオーケストラの演奏レベルは、ここ数年で飛躍的な進化を遂げているという。ソウル市立交響楽団やKBS交響楽団、ソウル・フィルハーモニックといったソウルを拠点に置くオーケストラの情報は比較的耳にする機会があるものの、大邱市立交響楽団の演奏力やアンサンブル力は如何なるものなのか。期待は高まるばかりだ。ここはしっかりと彼らの演奏に耳を傾けたい。

(文 磯島浩彰)

World Orchestra Festival of Daegu in Japan

韓国・大邱 国際オーケストラ・フェスティバル 日本特別公演
大邱市立交響楽団

[ピアノ] **金子三勇士**



[指揮] ジン・ベク Jin BAEK



[管弦楽] 大邱市立交響楽団

World Orchestra Festival of Daegu in Japan 韓国・大邱 国際オーケストラ・フェスティバル 日本特別公演 大邱市立交響楽団

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18
ラフマニノフ: 交響曲 第2番 ホ短調 op.27

全席指定 S 6,600円 A 5,500円 B 4,400円(税込) **発売中**

[主催] ザ・シンフォニーホール

2025.9/22(月) 7:00PM
アクロス福岡シンフォニーホール

【販売】アクロス福岡チケットセンター 092-725-9112
WEB: <https://www.acrosticket.jp>
CARAVANチケットセンター 092-401-0008
(オペレーター対応/平日11:00~18:00)

【お問い合わせ】CARAVAN 092-732-8858

福岡公演はザ・シンフォニー チケットセンターでのお取り扱いはありません。予めご了承くださいませ。

福岡公演



2025.9/25(木) 7:00PM
ザ・シンフォニーホール

【お問い合わせ】
ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333

大阪公演



대구광역시
DAEGU METROPOLITAN CITY

대구문화예술진흥원





指揮 飯森範親

2019年にミュンヘン国際音楽コンクールで日本人としては初の優勝となったチェリストの佐藤晴真が登場し、「ロココの主題」を披露する。

2021年の8月に開催され大成功をおさめた、あの「熱狂コンチェルト 真夏のチャイコ3連投」がふたたびザ・シンフォニーホールに帰ってくる。今回は世界の3大コンクールで堂々たる結果を残した3人のヴィルトウオーズが集結し、チャイコフスキーの名作を披露する。

日本人ピアニストの活躍に沸いたエリザベート王妃国際コンクール（ベルギー）やロンドン・ティボ国際コンクール（フランス）、最高レベルの技術と解釈の密度に圧倒されたヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール（アメリカ）、そしてポランドで行われたシヨパン国際ピアノコンクールの予備予選。春から初夏にかけて、ピアノファンは次から次へと繰り広げられるハイレベルな競演に、ライブ配信で酔いしれた。ステージに立つ若きピアニストたちはそれぞれの緊張や苦悩に対峙しながら、ひとたび楽器に向かうと、誇り高く、凛々しい。気が付けば画面越しに応援する私たちのほうがそのひたむきな姿に勇気づけられていた。

そして秋、世界最高峰のピアノの祝祭、5年に一度の「シヨパンコンクール」本大会がやってくる。稀に見る「国際ピアノコンクールイヤー」となった2025年シヨパンコンクール直前の9月に行われる今回の特級グランド・コンチェルトも、その熱い雲間の一端をお届けする。

進藤実優―早くからロシアに旅立ち、モスクワの地でその繊細でユニークなピアノと陰影に富んだ美音に磨きをかけると、2021年のシヨパンコンクールの後、ドイツ・ハノーファー音楽演劇大学の巨匠アリエ・ヴァルディの門を叩いた。哲学的で示唆に満ちた指導のもと幅広く音楽の可能性を学び、今春、予備予選を経て二度目のシヨパンコンクール挑戦を決めている。今、もっとも注目すべき俊才

が、満を持してシヨパンを弾く。

桑原志織―日本が世界に誇る圧倒的スケールの才能。マリア・カナルス、ヴィオッティ、ブゾーニ、ルビーシタイン。名だたる国際コンクールのすべてで上位に入賞し、5月のエリザベート王妃でも栄えあるファイナルの舞台に立つ、真価を証明してきたばかり。奇を衒ってらわぬ正統的な解釈と、深く大きな呼吸から生まれる包容力のある音楽で、どの国のどの文化の中にも喝采をもって受け入れられてきた。

エリザベート王妃のファイナルでも感動を呼んだ大作ブラームスの2番は、まさに「旬」のレパートリーとなる。

今年のコンクール最前線で挑戦しつづけている進藤と桑原にエールを送るがごとく、関西出身で2022年ビティナ特級グランプリの北村明日人が、トップバッターを買って出た。伸びやかなつくりとイメージ豊かな音楽的動作を存分に盛り込んでくるクリエイターで、飽きの来ないソロを弾く。一方で、持ち前のアンサンブル適性と朗らかな人柄は音楽家たちからの信頼も厚く、弦楽器の同輩・後輩たちやピアノでのコンチェルト伴奏などにも引張りだこで、サポートする側として「コンクールのステージにも立ち続けている。優美で親密なモーツァルトの傑作、第23番イ長調は北村の音楽性にぴったりだ。

北村と桑原は、東京藝術大学の附属高校時代から同門の先輩・後輩でもある。その師は伊藤恵、言わずと知れた日本を代表する名女流である。伊藤がシューベルト・ベートーヴェン・シumannなどのドイツ・オーストリア系の音楽で見せる高貴で凛とした気品と真直ぐな情熱は、当然、北村・桑原の音楽にも引き継がれている。北村には優しく、大らかな歌心が、桑原には心の奥深くに潜っていくような思索的、まろやかな深みが、確かに息づいている。

北村のモーツァルト、進藤のシヨパン、そして桑原のブラームス。共演は、「グランド・コンチェルト」の数々の名演を創り上げてきた藤岡幸夫と関西フィル。2025年秋、まさに今、絶対に聞きたい3人のコンチェルトが、ザ・シンフォニーホールに響きわたる。乞うご期待！

（文 加藤哲礼）

[ピアノ]北村明日人、進藤実優、桑原志織 [指揮]藤岡幸夫
[管弦楽]関西フィルハーモニー管弦楽団

特級グランド・コンチェルト2025 ピアノ協奏曲・名曲セレクション

モーツァルト：ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488（北村）
シヨパン：ピアノ協奏曲 第1番 水短調 Op.11（進藤）
ブラームス：ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 Op.83（桑原）

2025.9/19（金）6:30PM
全席指定 S 6,000円 A 5,000円（税込）
[お問い合わせ]（一社）全日本ピアノ指導者協会
03-3944-1583

発売中

[主催]一般社団法人全日本ピアノ指導者協会／ザ・シンフォニーホール

[指揮]飯森範親 [ピアノ]横山幸雄 [ヴァイオリン]川久保陽紀
[チェロ]佐藤晴真 [管弦楽]日本センチュリー交響楽団

チャイコフスキー：ロココの主題による変奏曲 イ長調 op.33
：ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35
：ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23

2025.8/3（日）2:00PM
全席指定 S 7,700円 A 6,600円 B 5,500円（税込）
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

詳細はこちら

異的な記録と記憶の話題にはいとまらない。近年はタクトも執る横山にとってチャイコフスキーの同作は最高の聴きもの。第1楽章のあの雄大な出だしからヴィルトウジティ溢れる終楽章まで場内を興奮の渦に巻き込むことだろう。

全編クライマックスといえるこのコンサート、指揮を務める飯森範親が日本センチュリー交響楽団と共に繰出すシンフォニックなサウンドも贅沢だ。「3連投」「3大コンクール」「ソリスト3人」「8月3日」と「3つくり」（ちなみにコンチェルトも3楽章構成）のエキサイティングな内容に期待せずにはいられない。

（文 城間勉／音楽ライター）

特級グランド・コンチェルト2025

史上稀に見る「国際ピアノコンクール・イヤー」、最前線で活躍する俊英たちを聞く

NEW RELEASE

日本人ピアニストの活躍に沸いたエリザベート王妃国際コンクール（ベルギー）やロンドン・ティボ国際コンクール（フランス）、最高レベルの技術と解釈の密度に圧倒されたヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール（アメリカ）、そしてポランドで行われたシヨパン国際ピアノコンクールの予備予選。春から初夏にかけて、ピアノファンは次から次へと繰り広げられるハイレベルな競演に、ライブ配信で酔いしれた。ステージに立つ若きピアニストたちはそれぞれの緊張や苦悩に対峙しながら、ひとたび楽器に向かうと、誇り高く、凛々しい。気が付けば画面越しに応援する私たちのほうがそのひたむきな姿に勇気づけられていた。

そして秋、世界最高峰のピアノの祝祭、5年に一度の「シヨパンコンクール」本大会がやってくる。稀に見る「国際ピアノコンクールイヤー」となった2025年シヨパンコンクール直前の9月に行われる今回の特級グランド・コンチェルトも、その熱い雲間の一端をお届けする。

進藤実優―早くからロシアに旅立ち、モスクワの地でその繊細でユニークなピアノと陰影に富んだ美音に磨きをかけると、2021年のシヨパンコンクールの後、ドイツ・ハノーファー音楽演劇大学の巨匠アリエ・ヴァルディの門を叩いた。哲学的で示唆に満ちた指導のもと幅広く音楽の可能性を学び、今春、予備予選を経て二度目のシヨパンコンクール挑戦を決めている。今、もっとも注目すべき俊才

が、満を持してシヨパンを弾く。

桑原志織―日本が世界に誇る圧倒的スケールの才能。マリア・カナルス、ヴィオッティ、ブゾーニ、ルビーシタイン。名だたる国際コンクールのすべてで上位に入賞し、5月のエリザベート王妃でも栄えあるファイナルの舞台に立つ、真価を証明してきたばかり。奇を衒ってらわぬ正統的な解釈と、深く大きな呼吸から生まれる包容力のある音楽で、どの国のどの文化の中にも喝采をもって受け入れられてきた。

エリザベート王妃のファイナルでも感動を呼んだ大作ブラームスの2番は、まさに「旬」のレパートリーとなる。

今年のコンクール最前線で挑戦しつづけている進藤と桑原にエールを送るがごとく、関西出身で2022年ビティナ特級グランプリの北村明日人が、トップバッターを買って出た。伸びやかなつくりとイメージ豊かな音楽的動作を存分に盛り込んでくるクリエイターで、飽きの来ないソロを弾く。一方で、持ち前のアンサンブル適性と朗らかな人柄は音楽家たちからの信頼も厚く、弦楽器の同輩・後輩たちやピアノでのコンチェルト伴奏などにも引張りだこで、サポートする側として「コンクールのステージにも立ち続けている。優美で親密なモーツァルトの傑作、第23番イ長調は北村の音楽性にぴったりだ。

北村と桑原は、東京藝術大学の附属高校時代から同門の先輩・後輩でもある。その師は伊藤恵、言わずと知れた日本を代表する名女流である。伊藤がシューベルト・ベートーヴェン・シumannなどのドイツ・オーストリア系の音楽で見せる高貴で凛とした気品と真直ぐな情熱は、当然、北村・桑原の音楽にも引き継がれている。北村には優しく、大らかな歌心が、桑原には心の奥深くに潜っていくような思索的、まろやかな深みが、確かに息づいている。

北村のモーツァルト、進藤のシヨパン、そして桑原のブラームス。共演は、「グランド・コンチェルト」の数々の名演を創り上げてきた藤岡幸夫と関西フィル。2025年秋、まさに今、絶対に聞きたい3人のコンチェルトが、ザ・シンフォニーホールに響きわたる。乞うご期待！

（文 加藤哲礼）



Maria Seiren

衝撃の平行ワールド

今回の公演
今回のステージでは、お馴染みの『Time To Say Goodbye』をはじめ、あらゆるジャンルから選りすぐりの名曲を取り揃えて、お届けします。マリアセレンの魅力が広がる（パラレルな音楽空間）に、どうぞご期待ください。

初代チャンピオン
2023年2月、世界No.1オーディション番組シリーズの日本版『Japan's Got Talent』で、審査員・視聴者の圧倒的支持を集めて初代チャンピオンに輝くと、翌1月には本場アメリカの『America's Got Talent (AGT)』へ出演を果たし、NBC全米ネットワークでアメリカ中に放送されるなど、注目度は日々高まっています。



予定曲目
アヴェ・マリア、オペラ座の怪人、オー・ソレ・ミオ、Time To Say Goodbye、他
※予定曲目は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

[ソプラノ/テノール] マリアセレン
[演奏] 鈴木結花 (Pf)、田澤明子 (Vn)、入江晴美 (Vc)
[コーラス] モンドバラレック歌劇団

2025.12/10 (水) 6:30PM
全席指定 6,500円 (税込)
[お問い合わせ] MIN-ON 関西 06-4304-9516
[主催] MIN-ON / ザ・シンフォニーホール
シンフォニア会員先行予約: 7/24 (木) 一般発売: 8/7 (木) **NEW**



詳細はこちら

驚異の両声ボーカリスト!
男女の声をノーブレスで
歌い分ける!
キセキの歌声が響き渡る!

キセキの歌声
一人でソプラノとテノールとを歌い分けることができる。世界で唯一の歌声を持つマリアセレン。182センチの身体から発する圧倒的な声量と独特の感性で男女の声を一人で使い分けて歌った『Time To Say Goodbye』がYouTubeで大きな話題となり、再生回数1500万回を突破。その後、世界的ファッションデザイナー、コシノジュンコの目に留まり、ファッションショーへ両声ボーカリストとして出演し、好評を博しました。



ザ・シンフォニーホールの夏恒例の関西フィル「親子定期演奏会」に、今年はキンボー・イシイが登場! 「夏休み自由研究は、これで決まり!!」音楽でたどる万国博覧会2」というテーマは、少年時代からウィーンやニューヨークで学び、ドイツの歌劇場の音楽総監督を歴任した、国際派のマエストロにぴったリだ。

——今回の親子定期演奏会の特徴は何ですか。
今、大阪では、大阪・関西万博がひらかれていきますので、音楽でも世界各国の代表的な作品を紹介しようと思います。そして、それが夏休みの宿題の一助にでもなればと思っています。また、親子でいらつしやるということで、大人の方も楽しめるコンサートにしたいと思います。

——プログラムについて教えていただけますか。
まず、アンダーソンの「舞踏会の美女」。アメリカンスタイルのワルツです。みんなで楽しもうという世界観で、最初にこの曲をもってきました。続いて、本場ウィーンのホルカということで、ヨハン・シュトラウス2世の「アンネン・ホルカ」を演奏します。そしてヴァイオリニストの松本蘭さんに登場していただいて、フランス、チェコ、イギリス、ルーマニアの音楽を弾いていただきます。その後に、ベートーヴェンの大

ヒット曲である「運命」の第1楽章で前半を締め括ります。

後半は、フランスの作曲家ビゼーによる「カルメン」前奏曲とイタリアの作曲家マスカーニの「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲でヨーロッパ南部の情熱的な名曲をお届けいたします。ドイツのブラームスは「ハンガリー舞曲 第5番」です。ハンガリーは当時「オーストリア＝ハンガリー帝国」で、ドイツ、オーストリア、ハンガリーが文化的に結ばれていたということを取り上げます。日本民謡もメドレーで演奏します。最後はビゼーの「アルルの女」の「フランドール」で締め括ります。

ヴァイオリニストから指揮者へ転身
——ご自身の子供の頃の話を話していただけますか。
小学4年生のとき、イツァーク・パールマンの演奏会を聴いて、ヴァイオリニストになりたいと決心しました。そして12歳から海外で、W・バリリ、D・デイレイなど著名なヴァイオリンの先生方に習いました。でも、指の故障のため、指揮者に転身しました。

最後にメッセージをお願いします。
ザ・シンフォニーホールは特別な場所ですが、堅くなることなく、音楽に来ていただけて、音楽を素直に感じて、受け止めていただければいいと思います。ナチュラルに良い時間を過ごしてほしいですね。
(文 山田治生)

[指揮・お話] キンボー・イシイ [ヴァイオリン] 松本 蘭
[司会] 空井仁美 [管弦楽] 関西フィルハーモニー管弦楽団

<第1部> アンダーソン「舞踏会の美女」/ シュトラウス2世「アンネン・ホルカ」/ マスネ「タイスの瞑想曲」/ ドヴォルザーク「ユーモレスク」/ エルガー「愛の挨拶」/ バルトーク「ルーマニア民族舞曲」より 第1番、第5番 / ベートーヴェン「交響曲 第5番」[運命] 第1楽章
<第2部> ビゼー「歌劇「カルメン」より「第1幕への前奏曲」/ マスカーニ「歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」」間奏曲 / ブラームス「ハンガリー舞曲 第5番」/ 日本民謡メドレー (D. ハウエル編) / 越中おわら節 (富山) ~ 南部牛追い唄 (岩手) ~ 谷茶前節 (沖縄) ~ 会津磐梯山 (福島) / ビゼー「劇音楽「アルルの女」より「フランドール」

2025.8/5 (火) 2:00PM
全席指定 4,400円 (税込) ※4歳以上のお子様から入場可能です。
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] 公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団 ザ・シンフォニーホール



詳細はこちら

オールバッハ名曲選!! 真夏のオルガンコンサート 2025

北の国からの贈り物

第25代札幌コンサートホール Kitara 専属オルガニスト

[オルガン]

ファニー・クソー

©Hiroharu Takeda



気鋭のオルガニストが奏でる美しく色彩満ち溢れる音色、バッハの名曲をじっくり味わう

ザ・シンフォニーホール恒例の「真夏のオルガンコンサート」が今年も開催される。「大阪を訪れるのはこれが初めて」と語る笑顔が印象的なファニー・クソーは、札幌コンサートホール Kitara の第25代専属オルガニスト。Kitara ではホールのシンボリックな存在パイプオルガンの魅力を広く発信していく目的で、専属オルガニストをヨーロッパから毎年招聘している。昨年のウィリアム・フィールドに続き、厳しい審査で選ばれた Kitara の専属オルガニストの演奏が聴けるこのシリーズは、とても興味深い。灼熱の太陽が照りつける中、一際涼しいザ・シンフォニーホールの客席でゆったりとオルガンサウンドに身を委ねる幸せとときたら……。

ステージ上には大勢が溢れ返るオーケストラも何もなく、向き合うのはオルガン奏者だけ。彼らの演奏姿を初めて目にする貴方には、足も手も全身を使っ

て弾きこなしている姿が新鮮に映るかもしれない。クソーは「今回は全曲バッハの作品を演奏します。『トッカータとフーガニ短調』や『G線上のアリア』『目覚めよと呼ぶ声あり』といった名曲を並べました。初心者からオルガン通の方まで楽しめるプログラムです」と力を込める。真夏に聴くオルガンコンサートは、一度経験すると沼ってしまいうに違いない。

(文 磯島浩彰)

[オルガン]ファニー・クソー (第25代札幌コンサートホール Kitara 専属オルガニスト)

J.S.バッハ: トッカータとフーガニ短調 BWV565 / オルガン協奏曲 イ短調 BWV593より 第2楽章 / オルガン協奏曲 ニ短調 BWV596より 第3楽章 / 前奏曲とフーガト長調 BWV541より「前奏曲」/ 管弦楽組曲第3番 ニ長調 BWV1068より 第2楽章「G線上のアリア」/ フーガト短調「小フーガ」BWV578 / コーラル「目覚めよと呼ぶ声あり」BWV645 / コーラル「われいずこに連れ行かん」BWV646 / パッサカリヤとフーガニ短調 BWV582

2025.8/2 (土) 2:00PM

全席指定 2,750円(税込) ※休憩なし。約60分間のコンサートです。

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

詳細はこちら



©Seichi Saito



MIYUJI KANEKO Piano Recital 金子三勇士 ピアノ・リサイタル

リスト&ベートーヴェンを縁のある場所^{ホール}で披露。大きなスケールと高度なテクニックに期待！

ライフワークとするフランク・リストの作品を中心に、近年はさらにレパートリーを拡げて、注目がいつそう高まるピアノスト金子三勇士。日本人の父とハンガリー人の母のもと1989年に日本で生まれ、6歳からハンガリーの祖父母の家で生活、11歳で飛び級により国立リスト音楽院に入学するなど、作曲家の祖国でも早くから才能が認められた天才肌だ。2006年に帰国して2008年のバルトーク国際音楽コンクールに優勝、ロンドン・フィルとチャイコフスキーのピアノ協奏曲の録音も話題になった。2011年にデビューし同年10月22日にザ・シンフォニーホールでのリサイタルは、リスト生誕200年記念年の誕生日当日で、その特別な日が「プロとしての大切な第一歩になった」と語るほど縁のある場所だ。

今回はリストの名曲「ラ・カンパネラ」「ハンガリー狂詩曲第2番」等とともに、ベートーヴェンの「悲愴」「熱情」ソナタを組み合わせた抒情と技巧が際立つプログラム。

ヴィルトウオーゾタイブの人気ピアノストとして評価され、名門スタインウェイ&サンズ社が認めた日本で数少ないスタインウェイアーティストである彼の大きなスケールと高度なテクニックが存分に発揮される極上の一夜となる。

(文 城間勉/音楽ライター)

[ピアノ]金子三勇士

リスト: ラ・カンパネラ バガニニによる大練習曲集 第3番 嬰ト短調より / 泉のほとりて 巡礼の年 第1年〜スイスより / リゴレット・バラフレーズ / ペートルカのソネット 第104番 巡礼の年 第2年〜イタリアより / ハンガリー狂詩曲 第12番 嬰ハ短調 / ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第8番 ハ短調 op.13 「悲愴」 / ピアノ・ソナタ第23番 へ短調 op.57 「熱情」

2025.8/23 (土) 7:00PM

全席指定 4,400円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中



詳細はこちら

オルガン名曲決定版 2025 富田一樹 オルガンリサイタル



©加納典明

ザ・シンフォニーホールのオルガンを
知り尽くす富田の名曲選!!

今年もザ・シンフォニーホールの「富田一樹オルガンリサイタル」が決定した。ザ・シンフォニーホールではホールの顔とも言えるオルガンのコンサートを数多く開催しているが、このオルガンを知り尽くす富田が今回選んだプログラムは、J.S.バッハ(1685-1750)の幻想曲とフーガト短調 BWV542、大フーガと、「G線上のアリア」BWV1068-2(オルガン版)、バッハの先生や先輩にあたるD.ブクステフーデ(1637-1707)の前奏曲ハ長調 BWV137やG.ベーム(1661-1733)の「天にましますわれらの父よ」に加えて、W.A.モーツァルト(1756-1791)「自動オルガンのためのアンダンテ」K.616、19世紀の作曲家L.ボエルマン(1862-1897)「オルガンのための「ゴシック組曲」op.25」といった多岐にわたる作曲家の作品が並んだ。プログラムの狙いについて富田に尋ねたところ「今回はザ・シンフォニーホール自慢のスイス「クレーン社」製オルガンの魅力の一つ、音色の多彩さを楽しんでもらえるプログラムを意識して構成しました。気に入っていただけたら嬉しいです」と語ってくれた。パイプオルガンを、モーツァルトは「楽器の王様」と呼んだように、1台でオーケストラの音域も音量も出してしまうのだ。この好機会にオルガンの響きを聴いてみてはいかが？

(文 磯島浩彰)

[オルガン]富田一樹

J.S.バッハ: 幻想曲とフーガト短調 BWV542「大フーガ」/ J.S.バッハ: 「G線上のアリア」BWV1068-2 (オルガン版) / D.ブクステフーデ: 前奏曲 ハ長調 BuxWV137 / G.ベーム: コーラル「天にましますわれらの父よ」/ W.A.モーツァルト: 自動オルガンのためのアンダンテ K.616 / L.ボエルマン: オルガンのための「ゴシック組曲」op.25

2025.11/9 (日) 2:00PM

全席指定 3,300円(税込)

※休憩なし。約60分間のコンサートです。

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

詳細はこちら

[編曲・指揮]
藤野 浩一[ゲスト] マルコス・ペレス・ミランダ
(新日本フィル首席クラリネット奏者)ライト・シンフォニックコンサート
Vol.12

大人の贅沢

日本人メジャーリーガーの活躍を祈念して
&
松崎しげるベストソングセレクション[ゲスト]
松崎 しげる

この人気のコンサートで、編曲と指揮を担当する藤野浩一に話を聞いた。

後半のステージも楽しみです。前半のアメリカン・ポップスのサウンドは格好良いですね。

大阪に居ながらにしてボストン・ポップスやニューヨーク・ポップスの響きを楽しめるようにという活動が、大阪交響楽団と共に実を結び始めています。

今回のプログラムの目玉の一つが、C.P.E.バッハの「ソルフェジェット」を見事にジャズに昇華させた「ソルフェジェット/メタモルフォシス」です。

グラミー賞6度受賞の作編曲家ホルヘ・カランドレッリが世界最高峰のクラリネット奏者エディ・ダニエルズのために書いた「ソルフェジェット/メタモルフォシス」を、1小節1小節丁寧に譜面に書き起こしました。難しすぎて断られることの多いこの曲を、今回は新日本フィルの首席クラリネット奏者マルコス・ペレス・ミランダが演奏してくれま

す。その超絶技巧と歌い回しの素晴らしさを堪能ください。

後半のゲストは松崎しげるさんです。松崎さんの魅力は、その声量やキーの高さといった歌の上手さにフォーカスされてしまいがちですが、真骨頂は歌詞の持つドラマを伝えるところにあるような気がします。

ギターを手に取り、G Major のコードをポロインと弾いて、1フレーズ歌った途端に恋に落ちた女性を沢山見てきましたから……。ザ・シンフォニーホールでお待ちしております。

(取材文 磯島浩彰)

[ゲスト] 松崎 しげる、マルコス・ペレス・ミランダ (新日本フィル首席クラリネット奏者)

[編曲・指揮] 藤野浩一 [管弦楽] 大阪響ポップスオーケストラ

第一部「日本人メジャーリーガーの活躍を祈念して」An Affair To Remember / Luck Be A Lady / Somewhere Out There / Deep in the Heart of Texas / 私を野球に連れてって (Take Me Out To The Ball Game) / Here's That Rainy Day / ソルフェジェット/メタモルフォシス (Solfeggietto/Metamorphosis) / アメリカン TV アドベンチャー (American TV Adventure)

第二部「松崎しげるベストソングセレクション」素肌物語 / ただそれだけ / 愛のメモリーほか

2025.8/24 (日) 2:00PM

全席指定 SS 10,000円 S 8,000円 A 6,000円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] 公益社団法人 大阪交響楽団 / ザ・シンフォニーホール

発売中



詳細はこちら

前橋汀子

ヴァイオリン・スペシャル・コンサート

Interview

一音一音への思い入れが深くなった。
ヴァイオリンを弾けることの喜びを
改めて強く感じています。

Teiko MAEHASHI

© 岡本隆史

ブラームスの本質を追求し納得の演奏を目指す

——メンデルスゾーンに加えて、ブラームスのヴァイオリン協奏曲などを披露されます。曲にかける思いを教えてください。

これまでもブラームスの協奏曲は数え切れないほど弾いてきましたが、自身の中ではずっと満足できない思いがありました。弾く機会があればと思っていて、ぜひ弾きたいとお願ひしていました。久しぶりの演奏で、実現してうれしいです。今年2月には、私の集大成の一つとなるベートーヴェンのヴァイオリンソナタ全曲を収めたCDも世に出しました。今年は続いて、ブラームスのロマン派の要素が凝縮されているとみる3曲のヴァイオリンソナタの収録にも挑戦します。バッハやベートーヴェンを勉強してきた中で、ブラームスのあり方、本質を追求できれば。それは今の自分の技量で、どこまで表現できるのかという問いにもなると思います。ベートーヴェンのソナタの楽譜を見直し、一音一音練習を重ねて気付いたことがあります。作曲家は、楽譜を通して私たちに多くのことを語りかけてくれています。ブラームスの頃と時代は違っ

ても、人間の本質的なところは変わらないと感じています。

——前橋さんにとって、ザ・シンフォニーホールはともにも思い入れのあるホールですね。

こけら落としの時から演奏させていたにいて、本当に特別な場所です。音響は素晴らしいですし、お客さんの熱気を感じています。最近アンコールでよく弾くハンガリー舞曲では、手拍子まで起きます。これは大阪だけのこともかもしれませんね。以前 大阪音楽大学で教えていたこともあり、当時の学生たちが今でもコンサートに足を運んでくれるのは、何よりの喜びです。

——音楽以外にも大阪で思い出に残る、印象的なエピソードはありますか。

コンサートのときは会場とホテルの往復になり、なかなか街を知る機会がないものです。以前から食べたかったのですが、昨年ようやく大阪でたこ焼きを口にすることができました。急いで帰らねばというとき、お店を見つけ、駅のベンチに座ってなのですが(笑)。

——昨年、右肩の腱板断裂というけがをされました。60年を超える演奏活動の中で、7カ月にもわたって休まれたのは初めてでしょうか。コンサートにレコーディングに日

程の詰まる日々を送っている中、違和感を覚えながらスケジュールをこなしていましたが、一向に症状が改善せず、精密検査を受けてケガが判明しました。腕を動かせない日々

に、初めは「練習しないで楽だなあ」なんて思ったりもしましたが、日が経つにつれて「ヴァイオリンを再び持つことができるようになるのか。このまま終わってしまうのではないかと、焦りが募るばかりでした。リハビリの担当医に「頑張るから、何とか早く治らないか」と訴えました。が、「焦るのが、いちばんだめなんです」と諭されました。完治して、問題なく復帰することができました。

——弾けない間は、どんな日々を過ごされていたのでしょうか。

師匠のシゲティヤ、ハイフェッツをはじめ、ヴァイオリンに限らず、さまざまな楽器の往年の名手の録音を聴き直す時間にもあてました。普段はコンサートや練習で忙しく、じっくりと聴く機会もありませんでしたから。音楽に気持ちをつないでおきたい、という思いもありました。自身の音楽のルーツを改めて確認するとともに、名手の表現から新たな気付きがたくさんありました。

に何か変化をもたらしましたか。

正直、「あとどれくらい、自分に時間が残されているのか」との気持ちを抱くことはあります。一音一音への思い入れが深くなったように思います。当たり前だった日常、ヴァイオリンを弾けることの喜びを改めて強く感じています。同じ曲を弾いても、以前とは違う新鮮な気持ちで向き合っている気がします。指の動く限り、歩みを続けていきたいと思っています。

——凛としてステージに立つ前橋さんの演奏に接することができるのが楽しみです。

関係ないという方もいるけれど、私は音楽の要素には視覚も含まれると考えています。曲のイメージやホールの壁の色まで考えて衣装も選ぶようにし、若いころから気を遣ってきました。今は宅配便もあって便利な世の中ですが、昔は片手にヴァイオリン、片手に洋服をもって走っていたものです(笑)。

——コンサートへ向けた意気込み、皆さんへのメッセージをお願いします。

最近は動画サイトなどで手軽に音楽が聴けるようになりましたが、それだけでは音楽体験の本質を見失うようで怖いと感じています。決まった時間、場所に足を運んでいただくハードルはあるかもしれませんが、

「指揮」キンボー・イシイ



© 白土吉枝

[ヴァイオリン]前橋汀子 [指揮]キンボー・イシイ
[管弦楽]日本センチュリー交響楽団

ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.77
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 水短調 op.64
サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ op.28

2025.11/23(日・祝)2:00PM
全席指定 S 7,700円 A 6,600円 B 5,500円(税込)
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール



発売中
詳細はこちら



© 井上嘉和
[管弦楽] 日本センチュリー交響楽団

ぜひ生のヴァイオリンの音、ホールの空気感、そして演奏者の息遣いを肌で感じていただきたいと思っています。ホールにお越しくださり、私の集大成を聴いて頂けたらうれしいです。
(取材・文 最上聡)



今や次代を担う巨匠候補といってもよいだろう。2021年にシヨパン国際コンクールで第3位に輝いて以来、その抒情的な演奏はまたたく間に世界中の音楽ファンを虜にしたマルティン・ガルシア・ガルシア。初来日は2022年。以来8回来日しているが(5月7日時点)、回を追うごとに評価を高め、ファンを増やしている。11月8日のスペインADDA交響楽団との来日公演では、コンクールで最優秀コンチェルト演奏賞にも輝いたシヨパンの第2番を披露する。

——ピアノは5歳から、お兄様のピアノを聴いたのがきっかけだったと伺っています。

両親は音楽家ではありませんでしたが、ピアノを習っていた兄の演奏が大好きで、兄のようになりたいと思っていました。音楽家ではなく弁護士になった兄は、今も大のクラシック・ファンで応援してくれています。5歳で2時間くらい、6、7歳では6時間くらい練習していました。練習好きではなかったですが、音楽そのものは大好きでした。明確にいつからとは申し上げられませんが、音楽家になることをはやくから夢見ていました。

——今年はシヨパンコンクール開催ですが、あらためてこのコンクールはご自身にとってどんなものだったでしょうか。

コンクールの記憶はだいぶ薄れてきましたが、ターニングポイントになったのはまちがいないですね。自身をいかにアピールするかが、コンクールの意味でもありますが、コンクールなので競う面も当然あるのですが、当時はまるで音楽祭のような祝祭的な雰囲気だったという印象をもっています。課題曲がすべてシヨパンなのでひとりの作曲家に集中して取り組みましたから、とても大きな収穫があったと思います。

大阪で披露するシヨパンの第2番の協奏曲とそのファンタスティな魅力

——今回の来日ではシヨパンコンクールの本選と同じシヨパンの協奏曲第2番を弾かれますね。

多くのピアニストが第1番を取り上げますが、第2番はあまり弾きません。ただどちらも名曲ではないでしょうか。第1番は力強く、ベートーヴェンのような構築的な作品だと思っています。一方第2番は先に作曲されましたが、より感覚的でファンタジーやインスピレーションに溢れており、大変素晴らしい曲なので日本で披露する

[指揮]ジョセップ・ヴィセント [ギター]村治佳織
[ピアノ]マルティン・ガルシア・ガルシア
[管弦楽]スペインADDA交響楽団

ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ
シヨパン：ピアノ協奏曲 第2番 へ短調 op.21
ロドリゴ：アランフェス協奏曲
ラヴェル：ボレロ

2025.11/8(土)2:00PM
全席指定 S 15,000円 A 12,000円 B 売切
C 売切(税込)

[お問い合わせ]日本アーティストチケットセンター
03-5305-4545
[主催]日本アーティスト/ザ・シンフォニーホール

発売中

詳細はこちら

(取材・文 伊藤制子)
(次号に続く)



リピーターの皆さまにも新鮮な感動をお届けできる

パイプオルガンの荘厳な響きと、プロジェクションマッピングの映像美が創り出すファンタジーな世界で、多くのファンを虜にしていたザ・シンフォニーホールの「超絶」シリーズが、装いも新たに「新超絶のオペラ座の怪人」と銘打って、ミュージカルの代表曲を次々と聴かせてくれる。

演奏する人気オルガニストの大木麻理は「今回はすべて新たな編曲でお聴きいただけます。ファンの皆さまがイメージされる音楽を大切にしつつ、その想像の上を行きたい。慣れ親しんだザ・シンフォニーホールのオルガンだからこそ、納得のクオリティでなければなりません。プロジェクションマッピングも新装され、パークカッショントームも3人になるので、一層迫力は増すはずです。リピーターの皆さまにも新鮮な感動をお届けできると自負しています。どうぞご期待ください」と熱く語る。

今回のプログラムを覗くと、新旧の人気ミュージカルがずらっと並び、空前のミュージカルブームと言われる昨今、これらの曲をオーケストラの演奏で聴く機会は増えたが、パイプオルガンでの演奏は珍しい。一人で幾通りもの楽器のメロディーを同時に奏でることが出

来、一人オーケストラと呼ばれるパイプオルガン。ホールの建造物の一部を成し、天地が共鳴するような大迫力のオルガンサウンドは、巨大な楽器の中にいるかのような壮大で幻想的な世界へ誘ってくれる。そしてこのコンサートで忘れてはならないのが、最新技術を駆使したプロジェクションマッピングだ。音楽とプロジェクションマッピングが一体となると、クラシック専用ホールの枠を超えた、迫力満点のエンターテインメント空間を実現させる。今回はプロジェクションマッピングの映像もリニールアルされているので、その感動は計り知れないものになるはず。これは会場で体験するしかない。

最後に期待を込めてこう語ってくれた。

「私が専属オルガニストをして

[オルガン]大木麻理

「オペラ座の怪人」/「レ・ミゼラブル」/「キャッツ」
「美女と野獣」/「マンマ・ミーア!」/「ライオン・キング」
「コーラスライン」/「サウンド・オブ・ミュージック」

2025.8/23(土) 2:00PM
全席指定 3,300円(税込)
※休憩なし。約60分間のコンサートです。
※4歳以上のお子様からご入場可能です。

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

詳細はこちら

いるミュージック・ザ・シンフォニーホールとザ・シンフォニーホールのオルガンは、同じクイン社によって作られた、いわば姉妹のような楽器です。しかし、オルガンは設置する場所に合わせ一台一台オーダーメイドで作られますので、二つの楽器は全然違う個性を持っています。それぞれの楽器が持つ声を大切に、それを最大限に活かすのがオルガニストの腕の見せどころです。ザ・シンフォニーホールの素晴らしいオルガンの魅力をお伝えすべく、五感を研ぎ澄ませて公演の準備を進めてまいります！」

(取材文 磯島浩彰)



©Shuga Chiba

今もつとも聴きたいピアニストのひとり、それが福岡 洸太郎ではないだろうか。クリーヴランド国際ピアノコンクール優勝で注目されて以来、キャリアを重ねてきた福岡。昨年デビュー20周年を迎えていっそう輝きを増しており、さらなる高みへと着実に歩み続けている。世界各地でコンサートを開催し、バロックから現代まで幅広いレパートリーを誇る彼は、大阪のザ・シンフォニーホールにもたびたび登場。関西のピアノ・ファンの心をとらえてきた。



©Shuga Chiba

美しく磨かれた音色と超絶技巧を手中におさめる卓越したテクニックの持ち主の福岡。そのリサイタルはその練り上げられたプログラミングとテーマ性を備え聴く者の知的好奇心を大いに刺激してくれる。新作や現代作品ばかりではなく聴き慣れた名作も、彼の手にかかるととても斬新な表情を見せるようになる。11月24日のザ・シンフォニーホールでのリサイタルは「高雅な響を求めて」というタイトルで開催される。ピアノ・ファンの中にはピンとくる方もおられるのではないだろうか。そう、ラヴェルの有名なピアノ曲「高雅で感傷的なワルツ」の題名からとられているのだ。今回はラヴェルとショパンを組み合わせ、典雅なサロンの雰囲気がいざなってく

[ピアノ]福岡 洸太郎

「高雅な響を求めて」

ショパン：華麗なる大円舞曲 op.18、4つのマズルカ op.17、ボレロ op.19、ノクターン第18番 op.62-2、スケルツォ第2番 op.31
ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ、高雅で感傷的なワルツ、ラ・ヴァルス（福岡編曲）

2025.11/24（月・休）2:00PM

全席指定 5,000円（税込）

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中



詳細はこちら

（文 伊藤制子）

は、これまでバッハ、モーツァルト、スメタナ、ヴァーグナーなどの名作の数々をピアノソロに編曲して披露してきた。今回はラヴェルの《ラ・ヴァルス》を自身によるピアノ版で弾く予定だ。ウィーン・ワルツにひとひねり加えた名作で、福岡による編曲も楽しみだ。今年には生誕150年のラヴェル・イヤーにあたる。珠玉のピアノ名曲を数多くの残したラヴェルだけに、名手たちがラヴェル作品を手掛ける一年になるのが、福岡のリサイタルは中でもひととき注目の公演だ。



©武藤章

今取り組んでいる音楽を
ザ・シンフォニーホールのお客様にも
聴いていただきたい

上原彩子

Interview
前編

ピアノ・リサイタル

ベートーヴェン × プロコフィエフ

AYAKO UEHARA

上原彩子が今年もザ・シンフォニーホールでリサイタルをひらく。ベートーヴェンとプロコフィエフを組み合わせたプログラム。まず、それぞれの作品の魅力や聴きどころについてきた。

——リサイタルの前半は、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第8番「悲愴」と第14番「月光」ですね。

今、東京で1年に1回、ベートーヴェンのピアノ・ソナタによるリサイタルに取り組んでいます。1回目（2024年3月）は第1番から第3番と第19番、第20番（2回目（2025年3月）は第4番から第7番を弾きました。そして今年度（2026年3月）は第8番「悲愴」が入っていますので、ザ・シンフォニーホールのお客様にも今取り組んでいるものを聴いていただきたいと思い、「悲愴」を入れました。

「悲愴」は3楽章形式で書かれていて古典的なソナタの枠組みを踏まえています。が、「月光」は同じ3楽章形式でもソナタをすごく自由にとらえた、後期のソナタに向かう作品だと思っています。ベートーヴェンのピアノ・ソナタの発展が感じられる2曲だと思っています。

「月光」はユニークな作品だと思います。ロマン派に片足を踏み入

れている感じのところも多いのですが、自由に弾けばいいわけでもありません。ロマン派的なものと古典派的なもののバランスは、様々にやりようがあるので、いろいろ試したいと思っています。

——現在、ベートーヴェンの32曲のソナタのシリーズが進行中ですが、ベートーヴェンに集約的に取り組もうと思ったのはどうしてですか。

デビュー20周年（2022年）では今までやってきたチャイコフスキーとラフマニノフを取り上げましたが、まだこの年齢でし、今、もう一度ベートーヴェンを学び、自分の音楽を広げてしっかり形にしていこうと思い、取り組みました。

プロコフィエフの音楽は
透明感のあるところが好きです
——プロコフィエフについてはいかがですか。

プロコフィエフは、10代の頃にいくつかのコンチエルトやソナタを勉強し、20代に結構弾きました。私がプロコフィエフを好きなのは、すごく透明感のあるところですね。暴力的で攻撃的なところもありますが、いつも音にプロコフィエフならではの透明感があります。

——リサイタル後半はプロコフィエフの「戦争ソナタ」と呼ばれる第6

番と第7番のピアノ・ソナタですね。

第6番はどちらかというとオーケストラ的なところが多く、構成ががちりとしています。第7番はもっとピアノスティックな要素を極めた感じ。打楽器的な扱いもあります。2曲を並べて、違いを感じてもらえたらいいですね。ともに書かれたのは第二次世界大戦中で、そういう時代に書かれた音楽の中にあるメッセージを感じていただければと思います。

ベートーヴェンとプロコフィエフを組み合わせたプログラムへの思い、ザ・シンフォニーホールの思い出など、話は次号に続く。

（取材・文 山田治生）

[ピアノ]上原彩子

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調 op.13「悲愴」、
ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2「月光」
プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ 第6番 イ長調 op.82「戦争ソナタ」、
ピアノ・ソナタ 第7番 変ロ長調 op.83「戦争ソナタ」

2025.11/15（土）2:00PM

全席指定 5,000円（税込）

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中



詳細はこちら



© 飯島隆



©Daisuke

【指揮／作曲 宮川彬良（音楽監督）】

Shionのクインテット♪
大人になった子どもたち♪
ザ・シンフォニーホールで年6回開催されるOsaka Shion Wind Orchestraの定期演奏会。今回は即日完売の大好評を博した「宇宙戦艦ヤマト」公演から1年3ヶ月の時を経て、音楽監督・宮川彬良が登場します。今回のプログラムは豪華二本立てです。
前半はこれぞ、アキラさん♪！Shionとしては初めて、クインテットの音楽を特集します。NHKで2003年4月7日から2013年3月30日まで10年にわたり放送されたパペットバラエティにして音楽教養番組の「クインテット」。実際に演奏しているのかのように精巧な人形操演、クラシック音楽や歌謡曲の本格アレンジ、楽しいオリジナル作品の数々で大

人気を博しました。今回はクインテットの音楽を軸にさまざまな楽曲を織り交ぜたオリジナル構成のステージをお届けします。テーマ曲の新吹奏楽アレンジをはじめ、『ただいま考え中』『真夜中の動物園』などの懐かしい曲、おかあさんといっしょへの書き下ろし曲『あさごはんマーチ』、吹奏楽コンクール課題曲『僕らのインベンション』など、盛りだくさんの内容となっています。
後半は雰囲気を変えて、大阪にまつわる書き下ろし作品を中心とした構成です。オープニングを飾るのは、吹奏楽の街を掲げる八尾市の委嘱により誕生した、八尾の長い歴史の中に息づいた人や風土の持つ力強さが表現された『吹奏情話、八尾』。Shionの公演でも何度も取り上げていますが、回を重ねる度に作曲者自らも新たな発見をしながら進化を続けている作品です。続いて大阪府立茨田高等学校創立50周年のために昨年8月に書かれた委嘱新作『Mattanの嘆き』は、今回が初の生演奏披露となります。周年とともに閉校となる同校に携わる様々な人たちの思いが昇華した注目の1曲となっています。そして、大阪が生んだ、マンガの神様、手塚治虫にインスピレーションを得て書かれた『吹奏楽のためのソナタ「ブラックジャック」』。こちらは「血

【指揮／作曲】宮川彬良（音楽監督）
【吹奏楽】Osaka Shion Wind Orchestra

クインテットのテーマ／真夜中の動物園／ただいま考え中／僕らのインベンション／あさごはんマーチ／Mattanの嘆き／吹奏楽のためのソナタ「ブラック・ジャック」ほか

2025.9/20（土）6:00PM
全席指定 S 6,000円 A 5,000円 B 4,000円 C 2,500円
学生価格 3,000円（税込）
※C席は、Shionチケットセンター、Shionオンラインチケットのみでの販売。
※学生価格は、Shionチケットセンターのみでの販売。
【お問い合わせ】Shionチケットセンター
フリーコール：0800-919-5508（平日10:00～17:30）
【主催】公益社団法人 大阪市音楽団

発売中



詳細はこちら

と、汗と、涙と……「命」「生きてきて息る」の3楽章で構成された大作で、Shionとしては久々の演奏となります。骨太なラインナップの最後を飾るのは、みんな大好き「マッケンサンバⅡ」。華やかな大団円で締めくくります。
音楽のもつ楽しさ、メッセー、感性、五感を越えた魂の躍動……宮川彬良という作曲家の多彩な魅力を改めて感じられる公演となること間違いありません。クインテット、番組内では聞くことができなかった軽妙なトークもお楽しみいただけます。音楽を楽しむ天才、宮川彬良ワールドをShionの演奏で、ぜひ会場でご堪能ください。



独特の響きの中独自のサウンドが育ってきたように思います
ザ・シンフォニーホールに所属のビッグバンドができると聞き、驚いて第1回目のデビューコンサートを聴きに行ったのは確か2016年1月の事なので、早くも9年が経過したことになる。ザ・シンフォニーホール・ビッグバンド（以下TSHBB）は、ミュージックディレクター菊池寿人以下16名のメンバーが少しずつ入れ替わりながら、約半数は最初から在籍する形で、通算26度目のコンサートを先日5月末に終えた。「タンゴ・タンゴ・タンゴⅢ」を公演タイトルに、ヴァイオリンの古澤巖とバンドネオンの川波幸恵をゲストに迎えたコンサートは、タンゴの軽快なリズムが会場を支配し、大変な盛り上がりを見せていた。周囲のお客さんはTSHBBのことを、自分が鼻肩にしているバンドという体で話している、何だかとても新鮮な感覚だった。この9年間、クラシック音楽の殿堂だと思っていたザ・シンフォニーホールに、専属のビッグバンドが立派に育っていたことは嬉しい反面、認識不足とはいえず、申し訳ない気持ちでいっぱいになった。
終演後、リーダーの菊池寿人に公演の感想を求めたところ、「古澤巖さんは今回が9回目の共演です。毎回、ニューアルバムからの新曲をご

提案していただけるので、バンドとしても新鮮で尚且つ貴重な経験をさせていただける事が楽しみです。『慣れ親しんでいるホールのいつものバンド』と想ってくださいているお客様も多く、客席は毎回盛り上がりです」と話してくれた。
次回公演のゲストが、和太鼓の木村優一ということについては「2016年、2017年に続き、3度目のゲストです。和太鼓の持つ力強いエネルギーに後押しされ、バンドもヒートアップします。木村さんのオリジナル曲も多く、とても盛り上がるコンサートになると思います」と語る。
ザ・シンフォニーホールを本拠地とするビッグバンドということについて感想を求めたところ「残響2秒を売りにしている日本一のクラシックのコンサートホールですが、ビッグバンドの立場からいうと、独特な響きなのでそこをどう攻略するかがポイントです。生音を基本に、バランスを取るためにPAを入れることで音量を調整する必要があります。結成以来工夫を重ね、独自のサウンドが育ってきたように思います。また、メンバーはそれぞれが自身のバンドリーダーを務めるような奏者ばかりで、各々の良さを生かしたアレンジもこのバンドの魅力です」そして最後に力を込めて語って

【演奏】The Symphony Hall Big Band
【スペシャルゲスト】木村優一（和太鼓）

シング・シング・シング、スペイン、アルマンズ・ルンバ、乱馬、望郷 ほか

2025.9/2（火）7:00PM
全席指定 一般 7,500円 18歳以下 3,300円（税込）
【お問い合わせ】大阪アートエージェンシー
06-6372-4583
【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中



詳細はこちら

次回開催決定！
The Symphony Hall Big Band Vol.28
「昭和100年」
～ビッグバンドで昭和歌謡の名曲を～
2025.12/9（火）3:00PM
全席指定 一般 7,500円 18歳以下 3,300円（税込）
シンフォニア会員先行：7/24（木）
一般発売：7/27（日）
NEW
詳細は次号Sinfonia71号でお知らせします！

ザ・シンフォニーホールで培われたTSHBBのブラスサウンド。これはクラシックファンも興味があるはず。ぜひ実演で体感してみて欲しい。（取材・文 磯島浩彰）
「思いがけない楽器とのコラボレーションもこのバンドならではの。先ずは、次回の和太鼓とのコラボを期待ください。絶対に楽しんでいただけますので」
ザ・シンフォニーホールで培

日本センチュリー交響楽団

若き俊英たちが挑むベートーヴェンと武満の世界

日本センチュリー交響楽団 第293回 定期演奏会



【指揮】太田 弦 【アコーディオン】かとうかなこ 【語り】寺田 光

【管弦楽】日本センチュリー交響楽団

ベートーヴェン 交響曲 第2番 二長調 op.36

武満 徹 波の盆
武満 徹(岩城宏之 編曲):系図 - 若い人たちのための音楽詩・(小管弦楽版)

2025. 10/24 (金) 7:00PM

全席指定 S 10,000円(特典付) A 7,000円 B 5,500円
C 4,000円 D 3,000円

【お問い合わせ】センチュリーチケットサービス 06-6848-3311

【主催】公益財団法人 日本センチュリー交響楽団

一般発売: 7/17(木)



詳細はこちら



【指揮】太田 弦

若きマエストロ太田弦のタクトが誘う魅力的なプログラムが揃いました。幕開けはベートーヴェンの躍動感と明るさが魅力の交響曲第2番。
そして武満徹作品から、美しさが際立つ人気の高い「波の盆」。続いて「系図」では、センチュリーの本拠地でもある豊中市出身のアコーディオン奏者かとうかなこさんと、フレッシュな演技力で注目が高まる俳優の寺田光さんが語りで出演します。
若いアーティストとの共演による化学反応にご期待ください！

大阪交響楽団

記念すべき楽団創立日に原点回帰の大作を披露！

大阪交響楽団 第282回定期演奏会【創立45周年記念】



【指揮】山下一史(常任指揮者)

【ソプラノ】森谷真理 【メゾ・ソプラノ】林 美智子 【テノール】笛田博昭 【バス】伊藤貴之

【合唱】大阪響コーラス 【合唱指揮】中村貴志 【管弦楽】大阪交響楽団

ヴェルディ 死者のためのミサ曲「レクイエム」

2025. 9/28 (日) 3:00PM

全席指定 S 6,500円 A 5,500円 B 4,000円 C 2,500円 D 売切
オルガン席 2,000円 青少年学生券 1回券 1,000円 / 5回券 4,000円
※青少年学生券は、25歳までの学生のみ有効。楽団事務局のみ取り扱い。

【お問い合わせ】大阪交響楽団チケットセンター 072-226-5522

【主催】公益財団法人 大阪交響楽団

発売中



詳細はこちら



【指揮】山下一史

楽団創設者である故敷島博子が、ひたむきに音楽に向き合いながらも音楽で生計をたてたことの難しさに直面している若者たちの姿を目にし、自身が所属していた合唱団の伴奏をするオーケストラができないものかと、一念発起して大阪シンフォニカー(現大阪交響楽団)は生まれました。これまでに数えきれない方々、企業様のご支援、ご厚意、献身により、今日の大阪交響楽団がござります。45回目の創立記念日である9月28日、楽団の成り立ちを振り返り、合唱曲を取り上げることいたしました。ヴェルディの大作《死者のためのミサ曲「レクイエム」》を演奏いたします。

大阪フィルハーモニー交響楽団

原点にして頂点

ザ・シンフォニーホール特別演奏会 ベートーヴェン・チクルス I



【指揮】尾高忠明 【管弦楽】大阪フィルハーモニー交響楽団

ベートーヴェン バレエ音楽「プロメテウスの創造物」op.43 序曲

ベートーヴェン 交響曲 第1番 八長調 op.21

ベートーヴェン 交響曲 第2番 二長調 op.36

2025. 9/10 (水) 7:00PM

全席指定 A 6,000円 B 4,500円 C 3,500円

【お問い合わせ】大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890

【主催】公益財団法人 大阪フィルハーモニー協会

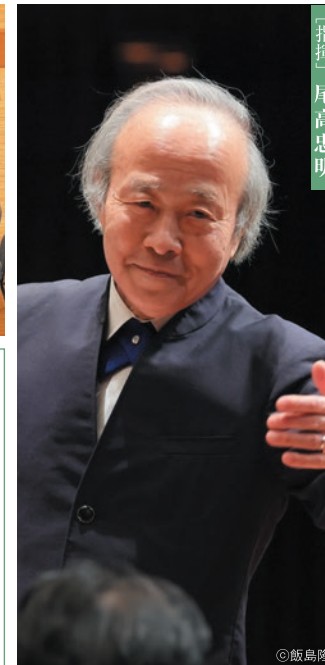
シンフォニア会員先行: 7/17(木) 11:00~ 一般発売: 7/22(火)

※ザ・シンフォニー チケットセンターでは7/23(水)より一般発売

※セット券は大阪フィル・チケットセンターにて発売中



詳細はこちら



【指揮】尾高忠明

尾高／大阪フィル7年ぶりのベートーヴェン・チクルス。1番から9番へと順を追っていくかたちで、第1番初演時に30歳に満たなかったベートーヴェンが50代半ばとなるまでの四半世紀にわたる進化と変貌を、実感していただけます。初回は眩いばかりの才能に満ちた若きベートーヴェンの姿が浮かび上がる二つの交響曲、そしてこの二曲に続く第3番との関連深い《バレエ「プロメテウスの創造物」序曲》を取り上げます。

関西フィルハーモニー管弦楽団

リベラ・メ…藤岡が真摯に迫る、史上屈指の劇的レクイエム

関西フィルハーモニー管弦楽団 第359回 定期演奏会



【指揮】藤岡幸夫(関西フィル総監督・首席指揮者)

【ソプラノ】並河寿美 【メゾ・ソプラノ】福原寿美枝 【テノール】福井 敬

【バリトン】大西宇宙 【合唱】関西フィルハーモニー合唱団

【管弦楽】関西フィルハーモニー管弦楽団

ヴェルディレクイエム

2025. 10/4 (土) 2:00PM

全席指定 S 6,500円 A 5,000円 B 3,500円 C 2,500円
学生席(25歳以下) 1,000円 ※学生席は関西フィル事務局のみ取扱い

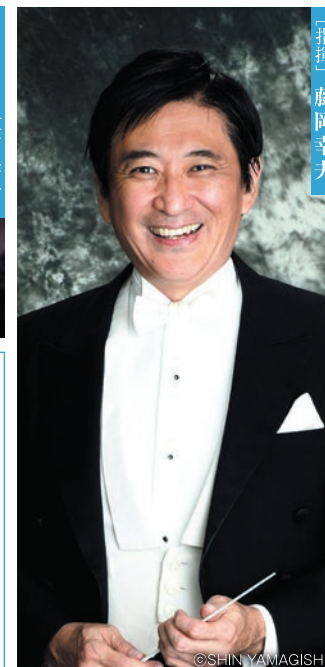
【お問い合わせ】関西フィルハーモニー管弦楽団事務局 06-6115-9911

【主催】公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団

発売中



詳細はこちら



【指揮】藤岡幸夫

関西フィルハーモニー管弦楽団総監督・首席指揮者藤岡幸夫が、ヴェルディの傑作《レクイエム》に真摯に挑む「リベラ・メ」に込められた祈りと激情、そして魂の叫びを、藤岡のタクトが鮮やかに描き出します。ソリストには、日本を代表する実力派歌手、並河寿美(ソプラノ)、福原寿美枝(メゾ・ソプラノ)、福井敬(テノール)、大西宇宙(バリトン)を迎え、関西フィルハーモニー合唱団との壮大な響きが重なります。劇的かつ崇高な、魂のドラマを、どうぞお聴き逃しなく。

こみちゃんの温故知シン

《vol.16》

—— 小味淵 彦之 (こみぶち ひろゆき／音楽評論家) ——

みなさまご承知のとおり「大阪・関西万博」が10月13日までの日程で、大阪湾にある人工島・夢洲で開かれています。その万博に関連した形で、いつもは実現しないような特別なコンサートが次々と開かれています。すでにザ・シンフォニーホールでは4月17日と19日に、クリストフ・エッセンバッハ指揮の大阪フィルハーモニー交響楽団他で、ベートーヴェン「第九」の演奏会がありました。

そして5月23日に宝石・時計ブランドのカルティエが主催するコンサートが、同じく大阪フィルの演奏で、ザ・シンフォニーホールにて開催されたのです。大阪・関西万博でカルティエが内閣府、経済産業省、2025年日本国際博覧会協会と共に開催する「ウーマンズパビリオン」の出版を記念したものでした。演奏会の目玉となるのは、鬼才のピアニスト・作曲家であるファジル・サイの新作ピアノ協奏曲である《Mother Earth》の初演。そこにドビュッシー《交響詩「海」》とヴィラ＝ロボス《「アマゾン」の森」組曲》の

抜粋が組み合わされます。指揮はブラジル出身のシモーネ・メネセスが、初めて大阪フィルを振りましました。料金は破格の1000円というのが、カルティエの矜持を示しているように思えます。

サイの新作はいかにも彼らしい才気煥発なもの。ピアノ協奏曲というジャンルを超えたオリジナルの響きが、数珠つなぎのように切れ目なく続きました。サイ自身の「この楽曲は、私たちが直面している地球規模の生態系の変化に対して、強い警鐘を鳴らすものです」という言葉のとおり、水・空気・火・大地という自然の四大要素から着想を得た作品。この日のプログラムは、前述した他の曲目を見てわかるとおり、自然にまつわる作品の選曲がなされています。指揮をしたメセネスは「この公演は単なる自然への賛辞ではありません。むしろ、私たち人間の本質を形づくる、感じる力や、聴く力、そして私たちが受け継いだこの美しい庭園の、庭師となる力に想いを向け、それらを調和させ、称えるための招待状なのです」と述

べています。

この日のロビーや客席はいつもとは違う雰囲気でした。高級ブランドのコンサートに相応しく、着飾った聴衆が多く訪れていて、外国人の方も沢山いらっしゃいました。オーケストラの演奏会に慣れない様子も見受けられ、楽章間で盛大な拍手が出ていました。また、普段以上に拍手喝采が続いて、激しいスタンディング・オベーションもありました。でも、それもいいと思うのです。こうして初めてオーケストラを聴き、そこから何かしらかのインプレッションを得て、少しでも興味を持ってもらうことこそが、今、一番求められていることではないでしょうか。普段、コンサートに足を運んでいない方々にホールの客席に座っていただき、音楽を聴いていただけること。コンサートを開催する側にとって、こんな幸せなことはないと思うのです。こんな演奏会がもう少し増えたらいいのに。そんなことを思わせられた時間になりました。

音楽を愛する団体が集い、夢を発信する「ザ・シンフォニーホール」。

暑い夏が始まったばかりですが、今号ではひと足お先に、ザ・シンフォニーホールの秋シーズンを盛り上げてくれる2つの演奏会をご紹介します。毎年大好評を博す「パナソニック合唱団」と「大阪府立夕陽丘高等学校音楽科」です。それぞれ“節目”の年に想いを乗せて、多彩な演奏を披露してくれるでしょう。今からチェックして、ぜひホールへお越し下さい！

MESSAGE

パナソニック合唱団 第48回定期演奏会

パナソニック合唱団 第48回定期演奏会

[指揮] 本城正博、米澤康浩、巽 彩名
[ピアノ] 天本麻理絵、中森瑞貴
[合唱] パナソニック合唱団

信長貴富：
無伴奏混声合唱のためのガルシア・ロルカ詩集
三善 晃 編曲：唱歌の四季
松下耕：Ubi Caritas
武満 徹：小さな空 ほか

2025.9/6(土) 5:30PM
自由席：2,000円(税込)

[お問い合わせ]
パナソニック合唱団
<https://mccchoir.jimdofree.com/>
[ご予約]
ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333



今回は、アルヴォベルト(エストニア)やクシニョフ・ペンデレツキ(ポーランド)の作品などの宗教曲、当団が2009年に委嘱初演を行った信長貴富氏による「無伴奏混声合唱のための『ガルシア・ロルカ詩集』」の再演、三善晃氏編曲の2台のピアノ伴奏による「唱歌の四季」を演奏します。また阪神・淡路大震災30年、東日本大震災15年の節目にあり被災された方々への「想い」「祈り」などのメッセージを含めた企画ステージも用意しています。ぜひ多彩な合唱音楽をお楽しみください。ご来場を心よりお待ちしております。

パナソニック合唱団「第48回定期演奏会」を開催「想い」「祈り」のメッセージを含めたステージも

パナソニック合唱団はパナソニックグループ社員を中心とした約90名の職場合唱団で、昨年1974年の創団から50周年を迎えました。精力的な演奏会活動のほか、全日本合唱コンクール全国大会では22回金賞受賞などの実績を誇ります。活動の幅は国内に留まらず、スペイン(1999年)、ニューヨーク(2005年)、中国北京・大連(2008年)にて演奏会を開催し好評を博しました。1990年からザ・シンフォニーホールで開催している定期演奏会も、今年で48回を数え、その中では国内外の著名な先生方への委嘱、招聘、オーケストラとの共演など様々なパフォーマンスを行ってきました。

MESSAGE

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科 第29回定期演奏会

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科 第29回定期演奏会

[指揮] 河合悠吾・山本伸子
[演奏] 大阪府立夕陽丘高等学校音楽科

土田豊貴：
女声合唱とピアノのための《音楽》より
Ⅲ. 間奏曲 Ⅳ. 音楽
ボロディン：
交響曲第2番
ワーグナー：
歌劇《タンホイザー》より

2025.10/12(日) 3:00PM
入場無料：要入場券

[お問い合わせ]
大阪府立夕陽丘高等学校音楽科
06-6771-0665



今年で「音楽科」設置30周年！先輩から後輩へと引き継がれてきた「夕陽丘サウンド」

夕陽丘高等学校は来年、創立120周年を迎える伝統校です。創立以来、充実した音楽教育により著名な音楽家を数多く輩出してきました。平成7年には大阪府立の高校として唯一の「音楽科」が設置され今年で30周年を迎えることができました。音楽科の生徒たちは校内にある330名を収容できる音楽ホールや練習室、レッスン室など恵まれた環境の中でピアノ、声楽、管弦打楽器の実技レッスンに加えて、音楽理論やソルフェージュ、和楽器などの音楽の専門的な学習に日々取り組んでいます。最近では生徒たちのアウトリーチ活動が盛んになり、近隣のマンションや病院などで演奏し交流する機会をもつことができています。毎年府民の皆様から好評いただいている定期演奏会では、今年で29回目となります。定期演奏会では、和楽器合奏、3年生による独唱・独奏・アンサンブル、そして全学年の合唱・管弦楽をお聴きいただけます。合唱と管弦楽は3学年が一緒に授業を受けており、先輩から後輩へと引き継がれてきた「夕陽丘サウンド」をこのザ・シンフォニーホールでお聴きいただけることに私たちは大きな喜びを感じています。ぜひともご来場いただき私たちの音楽をお楽しみください。